



招提北中だより

枚方市立招提北中学校
H30. 3. 8 (木)
発行者：校長 山本俊夫

いよいよ卒業式



14日(水)は第33回卒業式です。3年生にとっていよいよ招提北中学校を巣立っていく日がきました。入学した頃のこと昨日のこのように思い出されるぐらい、あっという間の三年間だったのではないのでしょうか。卒業は終わりではなく、新しい人生の次の舞台への始まり、スタートです。みなさんとお別れで少しさびしくなりますが、次のステージに向けて頑張りたいと思います。

12日(月)には公立高校の入学試験があります。まだ多くの人たちがこの試験に臨むことと思いますが、決して「マイナスのイメージ」で受験しないようにしてください。「〇〇人も落ちる、そこに入ったらどうしよう」「過去問解いてみたけどあまりできなかった…」など、そんなことをいくら考えたところでどうなるものでもありません。もっと「プラスのイメージ」をもって受験に臨んでください。

私が大学入試の前日にやったことは、これまで取り組んできた問題集や書きとめてきたノート(私は問題集の問題を解くとき、すべてノートに書いていました)などを全てかき集め、自分の目の前に並べて「おまえはこれだけ頑張ってきたんやろ!できないはずはない!絶対受かる!間違いない!自信持て!やれる!」と自分で自分を鼓舞し、努力してきたものを見返しながら、これまでの軌跡を振り返りました。そうすることで胸のもやもやは消え、自信がみなぎってきて当日に臨め、希望校に合格できました。前日の11日の日曜日は片付けも兼ねて、これまで頑張ってきた自分を振り返ってみてください。どれだけ頑張ってきたかということは、実は他の誰も知らない、自分しか知らないのですから。

3年生を送る会

2日(金)に「3年生を送る会」が行われました。まずは1・2年生の各学級からと各クラブからは、心のこもったメッセージが収録されたビデオメッセージの上映がありました。そのあと、現生徒会長の2年生の常さんから送る言葉があり、3年生の先輩方への感謝の気持ちと、招提北中学校を引き継いでいく決意が述べられました。

3年生からは、元生徒会長の並木さんからお礼の言葉と後輩へのメッセージが述べられ、「旅立ちの日に」の合唱が披露されました。

最後に、下級生の花飾りのアーチトンネルの下をくぐりながら、様々な思いを胸に退場していきました。和やかな、温かい雰囲気にもまれた送る会になりました。



校歌誕生秘話



みなさんは「校歌」がどのように作られ、それにどのような思いが込められているかについて考えたことはありませんか。私は以前勤めていた学校が、2つの中学校が統合してできた新校で、その時校歌の制作に関わった経験から、本校の校歌は「どのようにして作られたのか」について興味があり、何か資料はないかと校長室内を探していたところ、昭和60年12月2日付の本校PTA広報誌第2号を見つけました!その記事を下に紹介します。

作詞の小山文生さんは当時2年生の生徒だったことに驚きました。また、「校歌のように、学校があり続ける限り残るもの、これからの時代を生きる若者たちによって歌い継がれていくものを、生徒自身の手によって創り出したことを大きな喜びとして受けとめたいと思います。」と締めくくられている文章に「生徒自身の手によって学校を創り出したい」という思いが強く感じられ、その精神が校訓の一つである「創造」につながっているのだなと感じました。(校訓は4つ。あと「友情」「責任」「健康」です。)

こういった先人の思いのつまった「校歌」であることを念頭に置き、歌詞の意味を想像しながら、校歌を歌ってみてください。きっと校歌に愛着が生まれるのではないかと思います。

若いわれらが今築く

招提北中ここにあり

先生・生徒合作の校歌完成

招提北中学校校歌

作詞 小山文生
作曲 中間実

一、澄んだ青空 果てしなく

豊かな恵みが 降りそそぐ

船橋の流れ 望みつつ

自由を求め はばたかん

若いわれらが 今築く

招提北中 ここにあり

二、光がそそぐ 中の池

希望あふれる 学舎よ

心と身体を 鍛えつつ

創造高め のびゆかん

若いわれらが 手を結ぶ

招提北中 輝けり

三、自己の信ずる 道ゆけば

前途をはばむ ものはなし

郷土の歴史を かんがみて

真理をめざし つきすすまん

若いわれらの 自立の地

招提北中 ここにあり

招提北中学校が開校し三つの中学校から六〇〇名近い生徒たちが集り新しい学校をつくっていきこうという意気に燃えています。

校舎と施設以外に何もない状態から、生徒と教職員が力を合わせて学校教育の中身をつくり出すという最も中心的な課題に取り組んでいます。

可能な限り生徒自身の手によって学校を創り出したい、そんな教職員の意向を受けて、生徒諸君に校歌の歌詞づくりを呼びかけたところ多数の手づくりの校歌ができました。その中から検討委員会、職員会議などいくつもの審査をくぐって採用されることになったのが、今回招提北中学校校歌として発表されるものです。

2年生の小山文生君の手によって制作され、推敲を重ねられたものです。校歌のように、学校があり続ける限り残るもの、これからの時代を生きる若者たちによって歌い継がれていくものを、生徒自身の手によって創り出したことを大きな喜びとして受けとめたいと思います。なお、作曲は音楽科の中間実先生にお願いしました。